西島 千絵
（船と翼の会ふくしま）

大学時代から国際交流事業に関心を持ち、携わる機会が多くありました。しかし、教育という分野は初めてで、知識のなさも手伝って戸惑うことが多くありました。本事業の進行とともに、自分自身、国際理解教育についての関心が増していくのが実感でき、今ではこれをきっかけにもっと学んでいきたいと感じています。最後まであたたかく仲間として取り組んでくださったチームリーダーやチームの皆さんに心から感謝しています。

竹田 朋彦
（福島市立松川小学校）

今回のNGOと教育連携事業に参加し、多くの先生方や国際交流団体の方々と学んでいくことができて大変勉強になりました。職種や立場を越えて共通のテーマで話し合う難しさと楽しさ、苦労と喜びを実感しました。国際理解教育の実践は課題も多いけれど、可能性とやりがいがあります。この小冊子が少しでも多くの方々の関心を喚起し、アクションを起こすきっかけになれば望外の喜びです。

日下部 喜美子
（船と翼の会ふくしま）

青年国際交流事業に参加後、ずっと自分の体験がどうしたら社会に役立つのかを考えながら、会の活動に参加してきました。今回、このような機会をいただき、自分の体験を社会に還元する方法の一つを学ぶことができました。また、「対立の解決法」というテーマを扱うことで、改めて「WinWinを目指した意見の対立は歓迎すべきものである」ということを実感しました。みなさん、ありがとうございました。

紺野 富美子
（福島市立清明小学校）

「船の中の大事件」を実践したときの小学生の反応のよさと目の輝きは、素材のすばらしさを物語っていると思います。まさに、本物のよさでしょう。そのような貴重な素材をたくさん持っている「船と翼の会ふくしま」の方々との学習プログラム案作りを通して、相互理解という国際理解が身近に生まれたことが一番の宝物になりました。

「国際交流の会・かるみあ」チーム

チーム講師：菊地 恵美子
（国際交流の会・かるみあ）

「青年Mの学び」は「レヌカの学び」をベースに開発しました。グローバルセミナーで青森から参加した高校教員の方が「レヌカよりずっとおもしろくて奥が深いですね」とつぶやかれました。一から苦労して作り上げた教材だけに感激ひとしおでした。多様な立場の人々が熱く議論を交わし、共に学習プログラム作成に協働していったこの事業では多くの学びが生まれました。皆さんに感謝すると共に、こういう輪を継続させていきたいと思います。

三保谷 泰輔
（国際交流の会・かるみあ）

国際理解教育や教育現場が未知の分野だった自分には、事業当初は戸惑いとアイデアの煮詰まりの連続でした。しかし、プロジェクトメンバーや「国際交流の会・かるみあ」のメンバー、実践での参加者の方々など、多くの方々にアドバイスを頂き、励まされ完成することが出来たことに心から感謝します!そして、この授業（講座）案がひとりでも多くの方に活用され、より良い気づきと学びの機会が生まれることを願っています。

坂中 澄子
（郡山市立小山田小学校）

私は、このプロジェクトに参加し多くのことを学びました。小学校教員として、自分の生活が世界の人々の生活とつながっていること、身近なごく普通の人々が楽しんで国際協力をしていること、協力し合うことで自分たちも遠くの誰かの力になれるということを子供達に伝えていきたいと思っています。これから、私自身も自分にできることを見つけ、楽しみながら取り組んでいきたいと思います。どこか遠くの誰かと共に笑うために･･･。

小林 由枝
（須賀川市中央公民館）

国際理解に関心のある多くの人と出会うことができ、視野を広げることができたと思います。はじめは、あまり深い考えもなく「勉強になれば、、、」と思っていましたが、実際はとてもハードなものでした。何度もミーティングを重ね、熱い議論が交わされて、国際理解の奥深さや学習プログラム案作成の難しさをを感じましたが、熱い思いをチームでカタチにしていくおもしろさも学べました。ありがとうございました。